



# 義務教育課程における 防災教育カリキュラム開発に向けた研究

A study on development of a disaster prevention education curriculum  
in a compulsory education course



## はじめに

現在のわが国の義務教育課程では、体系的な防災教育が行われておらず、子どもたちが防災力を十分に習得することは難しい。そこで本研究では、将来的に義務教育課程における防災教育カリキュラムの開発と提案を目的とした検討を行う。具体的には、新学習指導要領(2008年)および防災教育チャレンジプランの分析を通して、防災教育の現状と動向を把握するとともに、分析結果に基づいて義務教育課程における防災の学習規準・基準表を作成した。

## 学習指導要領の分析

### 学習指導要領とは

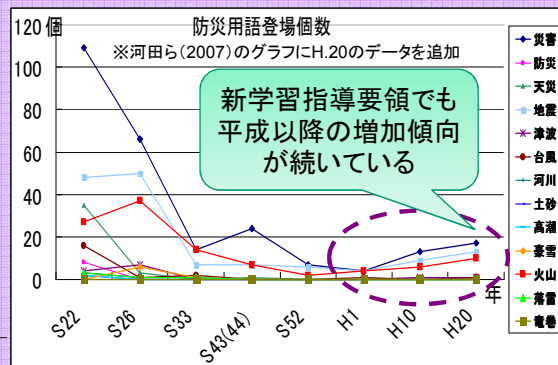
学校教育法施行規則を根拠に定め、文部科学省が告示した教育課程の基準。

おおむね10年ごとに改訂、最近では2008年3月に小・中学校の新学習指導要領が告示された。

最新の学習指導要領(2008年3月告示)における防災教育の扱われ方を把握するため、防災に関連する用語の登場回数を、河田ら(2007)\*の分析手法を用いて測定した。その結果、新学習指導要領においても平成以降見られる増加傾向が続いていることが分かった。

\*河田ら(2007)によると、防災教育は戦後が全盛期であり、以後教育が経験主義から系統主義に移り変わっていく中で、防災が系統的な学問体系とそぐわない、また大きな災害が起こらなかったという理由で下火になった。

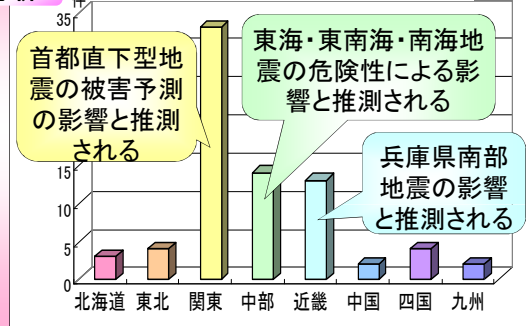
城下英行・河田恵昭:学習指導要領の変換過程に見る防災教育展開の課題 2007



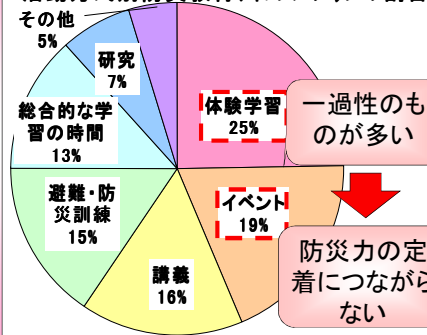
## 防災教育チャレンジプランの分析

※分析対象:2001~07年の小中学生を対象とした計80プラン

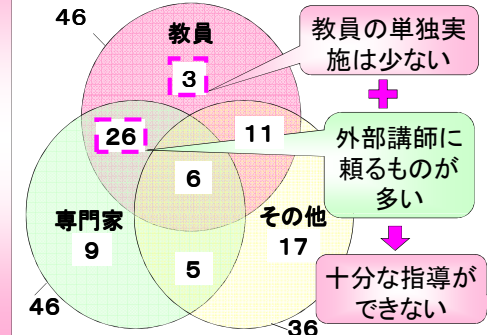
### 分析1 地域別の防災教育チャレンジプラン件数



### 活動方式別防災教育チャレンジプランの割合

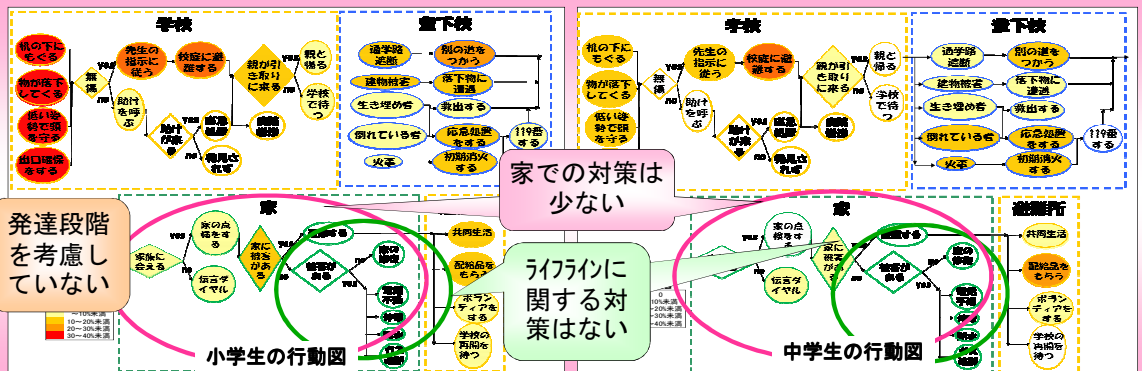


### 実施主体関係



### 分析2

学校、家、登下校の3場面を想定し、地震発生から学校→道路等→家→避難所生活という筋道を立てた。そして各場面で遭遇する出来事をあげ、各出来事に防災教育チャレンジプランの内容を当てはめた。これにより、防災教育が地震発生後のどの出来事に対応しているのかを明らかにした。



## 学習規準・基準表の作成

小・中学生の行動図をもとに、学習規準・基準表を防災前後の時系列に沿って作成した。義務教育課程で学ぶべき防災に関する事項を事前・事後の2軸で分け、さらに事後は応急対策と復旧・復興対策の2軸で分類した。また、事前を災害の知識、地域理解、防災対策の理解、事後の応急対策を初期対応、復旧・復興対策を被災生活という規準項目に分類した。また各規準の下に、量的な判断の根拠である基準を書き出した。その下に各基準についての勉強要素を書き出した。

時間	領域	規準	基準
事前	災害の知識	2軸で分類	様々な災害を知っている 災害のメカニズムを理解している
	地域理解		災害の具体例を知っている 地震について理解している 火山について理解している 風水害について理解している
初期対応	地域理解		災害について理解している 火災について理解している 各災害の関連性について理解している 過去の災害による被害を知っている 災害の発生メカニズムを知っている
	被災生活		身の回りの危険な場所を安全な場所を把握している 自分の生活圏を知っている 自分の生活圏の危険なところ、安全なところを把握している 自分の校区を知っている 自分の防災力を知っている 安全なところを把握している
事後	初期対応		学校や地域の自治体で行っている防災対策について知っている 学校の場合、教員の指示に従って落ち着いて避難できる 家庭での防災対策を知っている 地域での防災対策を知っている
	被災生活		自分の身を守ることができる 身体防衛できる 避難方法を知っている 火災消火の方法を知っている 二次災害防止方法を知っている 災害時に働いてくれる組織を知っている 緊急車の呼び方を知っている 信頼できる連絡先を知っている
被災生活	初期対応		消火について知っている 応急処置ができる 初期消火について理解し、実践できる 火災消火の体方を知っている
	被災生活		安否確認の方法を知っている 災害時に家族との連絡のとり方を知っている 災害伝言ダイヤルを活用できる 近所との助け合いができる ライフラインの断断による生活への影響を理解している 避難所についての理解がある 避難所においてルールを守り、協力して共同生活を営むことができる 帰宅再開について理解している 仮設住宅について理解している 被災者同士の助け合いについて理解している ボランティアの役割について理解している 感謝の気持ちを持つことができる 被災者の気持ちについて理解している 被災者の気持ちに共感することができる

## まとめ

本研究では、新学習指導要領および防災教育チャレンジプランの分析を通して防災教育の現状と動向を把握した。次に、分析結果を踏まえて義務教育課程における防災の学習規準・基準表を作成した。

今後の課題としては、下の①②が挙げられる。

### ①学習規準・基準表の改善

- 子どもの行動図の場面拡張→他の災害、季節、天候、重要度等を考慮した図の作成
- 規準・基準表の各項目の精査→子どもの発達段階や地域特性を考慮

### ②学習規準・基準表に基づく学習方法、必要時間、ツールの検討